

Newsletter No. 21

Maxillofacial Prosthetics

発行人 鱒見進一

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

倫理委員会・COI 委員会発足！



会則検討委員会委員長 関谷 秀樹

2014 年 6 月に、鱒見進一理事長のもと、会則検討委員長を拝命いたしました関谷でございます。塩入前委員長のように詳細に語彙を熟知している存在とは、比較にならないほど曖昧な私ですので、責務を全うできるか心配でなりません。先生方のご援助なくして成り立ちませんので、よろしくご支援のほどお願いいたします。

その心配は見事に的中、昨年 11 月より取り組んでいる倫理・利益相反（以後 COI）委員会会則制定に異変が起きました。文部科学省と厚生労働省の協働で昨年末の 12 月 22 日に公布された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」であります。平成 14 年制定、19 年全部改正した「疫学研究に関する倫理指針」と平成 15 年に制定され平成 20 年に全

部改正した「臨床研究に関する倫理指針」を統合・追加したもので、近年、データの改ざんや研究の不透明性の問題が指摘される中、人を対象とする医学系研究に携わる全ての関係者が遵守すべき倫理的事項を定め、平成 27 年 4 月 1 日に施行されています。

そこからは、こんな私にとって苦難の連続です（笑）。無論、この内容を十分加味した会則にしなければなりませんので、まず新しい指針の変更点や追加点を理解しなければなりません。次いで、会則検討委員や理事の先生方のご意見を賜り、全体の体裁を整えました。この時点で、すでに 2 月であり、さらに追加・修正を繰り返して最終版を完成させました。ひとえに先生方のご助言の賜物であり、この場をお借りして厚く御礼申し上げる次第でございます。

2 月の理事会では、倫理委員会・COI 委員会が発足、次回の理事会までに人選という流れの中、さらに詳細な修正を重ねました。おもな変更点は、指針の適用範囲を規定している点、社会的に弱い立場にあるものへの特別な配慮（インフォームド・アセント）、研究計画書とデータ管理の厳密化、迅速審査の追加、個人情報への厳重管理であります。

この広報が先生がたのお目に触れるころには、両委員会は稼働しております。なんらかの不手際がございましたら何卒ご容赦いただきたく存じます。

2014 年度優秀論文受賞者の声



伊谷 康弘

大阪大学大学院歯学研究科
顎口腔機能再建学講座

有床義歯補綴学・高齢者歯
科学分野

上顎腫瘍術後患者における
早期顎義歯の有効性

顎顔面補綴 37(2):51-59

このたびは 2014 年度日本顎顔面補綴学会優秀論文賞という素晴らしい賞をいただき、たいへん光栄に思います。まずは、この論文を査読していただいた先生方、編集委員会の先生方に心よりお礼申し上げます。本論文は私の大学院での研究の一部ですが、なかなか思うように進まず大変苦労しました。それでも多数の先生方のお力添え、ご指導がありましてようやくこのような形にまとめることができました。終始ご指導いただきました前田芳信教授ならびに小野高裕教授、医局の先生方に心よりお礼申し上げます。

本研究は、上顎腫瘍患者に対して術前から補綴的に介入し早期顎義歯を用いたリハビリテーションを行うことが、術後早期に他者との会話や食事を通して社会復帰をはかる上で通法の顎補綴治療よりも有利であることを QOL 評価によって示したものです。本研究が今後、口腔腫瘍患者における早期補綴的介入の有効性の根拠の一つとなれば幸いです。

最後に本学会の益々のご発展をお祈り申し上げますとともに、諸先生方に心よりお礼申し上げます。

関連学会報告

4th Congress of ESSD

European Society for Swallowing Disorders (ESSD) は、ヨーロッパを中心に活動する、嚥下障害をメインテーマとした学会です。北アメリカには Dysphagia Research Society という歴史のある学会がありますが、ヨーロッパ版とのことで 4 年前に学会となりました。

昨年は、2014 年 10 月 23 日～25 日の 3 日間、

ベルギー・ブリュッセルにて 4th Congress of ESSD が開催されました。今回は招待講演 23 題の他、口演発表 44 題、ポスター発表 94 題と多くの演題が発表され、活発な討議が行われました。私は本学会には初参加でしたが、参加経験のある先生方に聞いたところ年々日本人の参加者も増加しているとのことです。本邦からの発表も多く、口演 4 題、ポスター演題も 11 題ありました。

咽頭電気刺激や経頭蓋磁気刺激を用いた独創的な取り組みや、遺伝子を使った疫学研究など、非常におもしろい発表を聞くことができました。また、今回の初めての試みとして症例検討会が行われており、口腔腫瘍術後のケースも提示されており、様々な立場・環境からいろいろな意見が出されていました。一方で、口腔ケアや口腔期に関する発表は少なく、補綴装置を用いたリハビリテーションなどはまだ浸透していない様子でした。顎顔面補綴を応用したリハビリテーションなどは、興味をもって受け入れられるのではないかと感じました。今年は 2015 年 10 月 1 日～3 日にスペインのバルセロナで開催される予定です。(広報委員 堀 一浩)

第 16 回日本口腔顎顔面技工研究会学術大会

2014 年 11 月 8 日(土)に ≪“その” 要望に応えるために≫ をテーマに、長谷部俊一先生(日本歯科大学附属病院)を大会長として東京、日本歯科大学附属病院牛込ホールにて第 16 回日本口腔顎顔面技工研究会学術大会が行われた。

菊谷武教授(日本歯科大学)、柳下寿郎准教授(日本歯科大学)による特別講演 2 題、馬場友美先生(UCLA)による招聘講演、清水祐次先生(徳島大学)の宿題講演と講演が多かった。一般口演は 9 演題で、PAP 製作の症例報告やスタビリゼーションプリントのストレス測定法、スリーププリントの改良といった技工関連の他に 3D モデル製作時の画像処理ソフトの選択、電子カルテシステムなど、デジタル技術関連の演題もあり、参加者から活発な質疑応答がなされていた。

また翌 9 日(日)には初の試みとして本学会会

員である西川圭吾先生（北海道大学）による義眼ストラップ製作のワークショップが開催され、事前に申し込みをした約 26 名が義眼の虹彩の彩色から完成まで行い、個性豊かな義眼が出来上がった。

次期大会は下江幸司先生（広島大学）を大会長に広島大学 広仁会館にて 2015 年 9 月 26 日（土）に開催予定である。（広報委員 宮本哲郎）



義眼ストラップ製作のワークショップ

第 2 回顎顔面補綴技工研修会

平成 27 年 3 月 19 日に東京ドームホテル 42 階 アリエスにて、文部科学省 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「高度がん医療開発を先導する専門家の養成」として東京歯科大学が行っている第 2 回「顎顔面補綴技工研修会」が開催された。本研修会では、北海道大学病院の西川圭吾先生が一般歯科技工の枠を超えた顎顔面補綴技工の有用性と可能性を、東京医科歯科大学の隅田由香先生は、日本の顎顔面補綴治療を牽引してきた東京医科歯科大学における顎顔面補綴治療を症例を通じて講演された。また、今回のコーディネーターである東京歯科大学の石崎 憲先生からは、現在の顎顔面補綴治療を取り巻く環境と今回の研修会の意義についての講演があった。本研修会は、日本顎顔面補綴学会を代表する新進気鋭の演者が無料で講演を行うということで、平日午後 7 時からという遅い時間にもかかわらず、会場は満員であり 9 時過ぎまで活発な討議が繰り広げられ、たくさんの顎顔面補綴臨床に関わる医療従事者が、熱く語り合える機会を強く欲していると感じられた。（日大歯 大山哲生）



紹介：頭頸部癌診療ガイドライン 2013 年版

頭頸部癌は、治療やリハビリテーションに携わる職種が多彩である。われわれ顎顔面補綴医が、腫瘍の切除や再建に対して、「少しでも…であれば、機能回復に有利なのに…」と思う場面も経験したことがあるのではないだろうか。一方で、われわれ顎顔面補綴医も頭頸部外科医や言語聴覚士らの立場や治療内容に常に関心を持つ必要があり、それにより初めてチームアプローチの重要性を謳う事ができるのではないだろうか。

頭頸部癌の診療に関しては、2012 年に『頭頸部癌取扱い規約 第五版』（日本頭頸部癌学会編、金原出版）、2013 年に『頭頸部癌診療ガイドライン 2013 年版、第二版』（日本頭頸部癌学会編、金原出版）が改訂された。強度変調放射線治療の普及、分子標的薬の承認など、頭頸部癌の診療において様々な変化がみられている。また、2012 年の周術期口腔機能管理に関する項目の保険収載によって、頭頸部はもとより全身の癌治療における支持療法としての歯科の役割も注目されてきている。2013 年度版頭頸部癌診療ガイドラインでは、上記の内容に加え、「舌半側切除に対する適切な再建方法は？」、「舌垂全摘出以上の症例において、隆起型の舌の再建は術後機能の保持に有効か？」、「頭頸部癌の治療において口腔ケアは有効か？」、「頸部郭清術後のリハビリテーションは有効か？」など本学会会員にも関係し得るクリニカルクエスションも収載されている。インターネット上にも公開されているので、一度、ご一読されてはいかがでしょうか。（広報委員 中島純子）

<http://www.jsco-cpg.jp/item/15/index.html>

Newsletter No. 21

Maxillofacial Prosthetics

関連学会のご案内

●第 33 回日本顎咬合学会

日 程：2015 年 6 月 27 日(土)～28 日(日)

大会長：渡辺隆史（日本顎咬合学会理事長）

会 場：東京国際フォーラム（千代田区）

問合せ：〒102-0093 東京都千代田区平河町
1-8-2 山京半蔵門パレス 201

TEL：03-3261-0474 E-mail：gakujutsu@ago.ac

●第 28 回日本顎関節学会総会・学術大会・第 20 回日本口腔顔面痛学会学術大会

日 程：2015 年 7 月 4 日（土）～5 日（日）

大会長：日本顎関節学会；栗田賢一（愛知学院
大学歯学部），日本口腔顔面痛学会；
矢谷博文（大阪大学大学院）

会 場：名古屋国際会議場（名古屋市）

問合せ：愛知学院大学歯学部顎口腔外科学講座
〒464-8651 名古屋市千種区末盛通 2-11

FAX：052-759-2158 e-mail：28thtmj@gmail.com

●第 28 回口腔診断学会学術大会

日 程：2015 年 9 月 4 日（金）～5 日（土）

大会長：俣木志朗（東京医科歯科大学歯科医療行動科学分野）

会 場：東京医科歯科大学（文京区）

問合せ：東京医科歯科大学 環境社会歯医学講
座 歯学教育システム評価学分野

〒113-8549 東京都文京区湯島 1-5-45

TEL：03-5803-4577 FAX：03-5803-4577

●第 21 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

日 程：2015 年 9 月 11 日(金)～12 日(土)

大会長：水間正澄（昭和大学医学部）

会 場：国立京都国際会館・グランドプリンス

ホテル京都（京都市）

問合せ：昭和大学医学部リハビリテーション医学講座

〒142-8555 東京都品川区旗の台 1-5-8

TEL：03-3784-8782 FAX：03-3784-2188

●第 25 回日本口腔内科学会

日 程：2015 年 9 月 18 日(金)～19 日(土)

世話人：由良義明（大阪大学大学院）

会 場：大阪大学コンベンションセンター（吹田市）

問合せ：大阪大学大学院歯学研究科顎口腔病
因 病態制御学講座口腔外科学第二

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-8

TEL：06-6879-5111

●第 29 回日本口腔リハビリテーション学会学術大会

日 程：2015 年 11 月 14 日(土)～15 日(日)

大会長：松香芳三（徳島大学大学院 HBS 研究
部顎機能咬合再建学分野）

会 場：徳島大学 長井記念ホール（徳島市）

問合せ：第 29 回日本口腔リハビリテーション
学会学術大会事務局

〒770-8504 徳島市蔵本町 3-18-15

徳島大学医歯薬学研究部顎機能咬合再建学分野

TEL：088-633-7350 FAX：088-633-7391

E-mail：29jaor@gmail.com

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会広報委員会
委員長 松山美和

委 員 大木明子，関谷秀樹，中島純子，
堀 一浩，宮本哲郎，吉岡 文

E-mail：max-service@onebridge.co.jp